ちょっと名大史

BRIEF HISTORY OF NAGOYA UNIVERSITY

105 昭和塾堂 ―鶴舞復興前の名大医学部校舎―

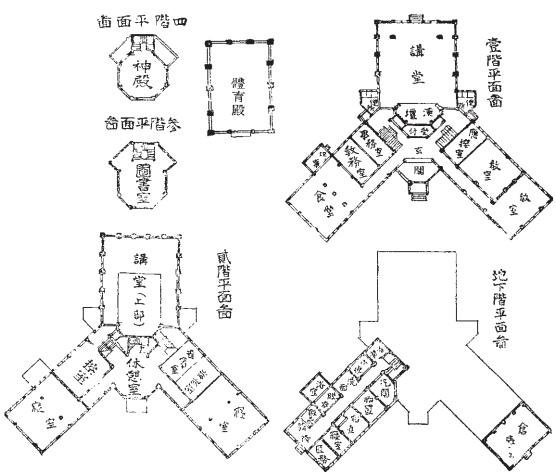
名古屋大学東山キャンパスから程近く、地下鉄本山駅から歩いてすぐの城山八幡宮境内の西南に、昭和塾堂と呼ばれる建物があります。ここが、かつて名古屋（帝国）大学の校舎として使われていたことは、意外に知られていないと思います。

昭和塾堂は、1929（昭和４）年、愛知県の施設として建設されました。青年団の幹部養成、教化を目的とする修養道場であり、毎年多くの若者がここでの講習会に参加しました。名実ともに、昭和戦前期における愛知県の青年教育のセンターだったのです。建造物としても、当時の様式の特徴をよく残す貴重な近代建築です。

さて、名古屋帝国大学医学部は、1945年３月の空襲によって、鶴舞の校舎のほぼ全てと附属医院建物の約半分を焼失してしまいました。そして敗戦後、講義を再開しなければならず、また各地に疎開していた研究室がもどる先も必要です。しかし敗戦の混乱の中で、鶴舞の復興は容易なことではありませんでした。

そこで、復興までの仮校舎の１つとして白羽の矢が立ったのが、戦時中の1943年に軍に接収されたのち、当時は再び愛知県が所有していた昭和塾堂の建物でした。1945年12月、名古屋帝国大学（47年10月から名古屋大学）はこの建物を県から無償で貸与されたのです。ここに医学部の解剖、第二病理、生理、薬理、衛生の各教室を移転し、医学部と附属医学専門部の第１学年、第２学年の講義を開始しました。

その後、1949年２月、愛知県はこの建物を研究施設や職員の研修所などに使用するため、名大に明け渡しを求めました。不十分ながら鶴舞の復興が徐々に進んでいた名大もこれに応じ、50年３月に県への返還がなされ、４年余りの名大キャンパスとしての歴史に幕を閉じました。



1 2 3
4 5

1　建設当時の昭和塾堂（1929年）。敷地は城山八幡宮から無償で貸与された。鉄筋コンクリート地上４階（塔屋部）・地下１階建て、総床面積約2065m^2。600人収容の講堂に、神殿、教室、食堂、図書館、寝室、浴室、貴賓室などの設備が整っていた。
2　1950年頃（名大時代か）の昭和塾堂玄関。
3　現在の昭和講堂内部。廊下や階段および講堂は、ほぼ名大校舎時代のままだという。
4　建設当時の昭和塾堂見取図。人づくりの殿堂ということで、人の字形に設計された。
5　現在の昭和塾堂。名大から県への返還後、1967年に城山八幡宮へ払い下げられた。現在は、愛知学院大学大学院歯学研究科が、城山八幡宮から貸与をうけて利用している。

名古屋大学基金

名古屋大学基金へのご寄附をお願い申し上げます。この基金は、平成18年3月に創設され、学生育英事業、教育・研究環境整備事業、国際交流事業などの充実のために活用されます。ご寄附のお申し込み、お問い合わせは総務課（基金推進室）あて（電話052-789-4993, 2011、Eメール kikin@post.jimu.nagoya-u.ac.jp）にお願いいたします。